

## 第2回「地域フォーラム」概要

開催テーマ 「奈良のまちづくりと土地利用のあり方」

日時 令和4年1月16日(日) 13時30分～15時30分

会場 いかるがホール

資料説明	荒井奈良県知事
	<p>大阪のベッドタウンとして発展してきた奈良県は、住宅が多く、産業や消費の場としての土地利用が少ない状況です。特に西和地域では顕著であり、次の世代への共通の課題であるという認識が一番大事だと思います。今の時代にふさわしい便利なまちづくりをどうするか、知恵が要りますが、チャレンジすべきではないかと思います。</p> <p>土地利用の課題として、住工混在化が進んでいること、農地、耕作放棄地が活用されていないこと、適正な管理がなされていない森林が増加していることなどが挙げられます。</p> <p>今までは、課題に対して、県でマスタープランを作って解決するというやり方でしたが、現在は、県も参画して一緒にまちづくりをしましょうといったような地域も出てきています。国や県から下りてくるのではなく、地元からこのようなまちにしたいということをもマスタープランにするといった手法を取り始めております。</p> <p>また、若者の世代が定着するような脱ベッドタウンのためには、新しい実験をしていかないといけないと思います。近隣の大和平野中央で、そのような取組として、ウェルネスタウン、スタートアップヴィレッジ、スポーツ施設というようなテーマでまちづくりを考えています。大和平野中央の様子を見て、この地域でもできないかどうかということを考えていただきたいと思います。</p>

資料説明	西脇平群町長
	<p>平群町は奈良県北西部の内陸の盆地で、自然災害が少なく、1年を通して過ごしやすい地域です。大阪府と隣接する都市圏に位置しながら、面積の約8割を山林や田畑などが占め、豊かな自然環境を保持しています。</p> <p>平群町の将来像として、平群駅周辺整備事業を生かした市街地の形成、居住や産業などの土地利用の適正配置、低未利用土地の有効活用を推進するとともに、交通ネットワークの連携強化や、公共施設等の再編を図り、暮らしよいまちづくりを進めてまいります。中心市街地と国道168号平群バイパス沿道で役割分担し、商業施設の適正な立地誘導を図り、生活利便性及び都市活力の向上を図ります。</p> <p>また、企業誘致活動を積極的に展開し、雇用の場の創出を図るとともに、平群町の基幹産業である農業のポテンシャルを高め、農産物のブランド化や高収益作物の取組を進め、平群町の魅力を創造・発信し、都市近郊という立地を生かしたまちづくりを進めてまいります。</p> <p>昨年2月に町制50周年を迎え、これまで先人が築いてこられた歴史や伝統を継承し、新たなことにチャレンジする姿勢で、みんなが笑顔になるまちづくりを目指します。</p>

資料説明	中西斑鳩町長
<p>斑鳩町では、令和2年度に第5次斑鳩町総合計画の策定と斑鳩町都市計画マスタープランの改定を行い、この新たな計画のもと、斑鳩町独自のまちづくりがスタートしています。このマスタープランでも主要拠点として位置づけておりますが、本町のまちづくりのメインとなる法隆寺周辺地域とJR法隆寺駅周辺を核としたにぎわいと魅力あるまちづくりを進めています。</p> <p>一方で、平成30年には、奈良県とまちづくりに関する包括協定を締結し、県と二人三脚のまちづくりも進めており、昨年の9月にはまちづくり構想の策定及びまちづくりに関する基本協定の締結を行い、さらに前進したところです。</p> <p>まちづくりの実現には、地元住民の方々の協力が必要不可欠です。これらのまちづくりを通して、町への誇り、愛着、共感がはかられ、シビックプライドが醸成されるまちづくりを推進し、魅力強化と回遊性をもって、法隆寺及びJR法隆寺駅周辺で事業展開することで、観光客や住民の皆様、にぎわいと幸せを感じてもらえるまちづくりを進めてまいります。</p>	

資料説明	西本安堵町長
<p>安堵町では、企業進出が進んでおり、これに伴い雇用及び税収が増え、人が行き交うため、まちが活性化していくと非常に期待をしております。一方、ハード面においては交通アクセスが脆弱であることから、奈良県及び近隣市町村と連携を図っている県道大和郡山広陵線のJR大和路線踏切以北の延伸整備に取り組んでいます。</p> <p>また、安堵町は、大和川、富雄川、岡崎川の三つの河川が合流し、奈良盆地の水が集まることから、水害に悩まされているまちでございます。現在、国の直轄事業の遊水地整備事業を県と連携して進めており、窪田地区遊水地について本格的に工事が始まっております。</p> <p>さらに、安堵町は、交通上の要衝となっていたことも相まって、多くの文化遺産がございます。こういった文化遺産の景観を保ちながら、歴史を生かしたまちづくりを進めてまいります。</p> <p>安堵町では、農業主体のまちから企業立地の推進への舵を切っており、この企業立地の推進、自然災害対策への強化、そして歴史文化の発信という三つの軸を基にした、「小さくてもキラリひかる活力あふれるまちあんど」を目指したまちづくりを今後も行っております。</p>	

意見	荒井奈良県知事
<p>今日のお話を聞いて、企業立地、水害、観光という共通の目標・課題があることがよく分かりました。</p> <p>奈良県では、道路の整備の見通しが立ってきていることから、企業立地が進んでおりま</p>	

す。共通の目標として企業立地環境を整備していくということが県と一緒にできると思います。

大和川の水害も共通の課題です。昨年12月には大和川が特定都市河川に指定されたことから、今こそ遊水地を作らねばと思っています。内水は市町村が主体、県はその補助を行うというような役割分担になっています。

観光については何ととっても法隆寺という大きな世界遺産ブランドがあります。これをどのように利用できるのか。リニアが来た時の売り出し方ということが大きな目標になると思います。

今日はこの地域の課題と目標が見えてきた一日でしたが、ビジョンを描いて土地が用意できれば、そのような課題にもうまく対応していけると思います。